

第8回 QOL/PRO 研究会学術集会

プログラム・抄録集

日時：2020年12月19日（土）13:30-17:00

オンライン開催

大会実行委員長：齋藤 信也（岡山大学）



目次

日程表	1
プログラム	2
抄録集	3

日程表

<総会>	司会進行 齋藤 信也（岡山大学）
12:50-13:20 (30)	研究会総会

<学術集会>	司会進行 齋藤 信也（岡山大学）
13:30-13:05 (5)	開会挨拶 宮崎 貴久子（京都大学）
13:35-14:20 (45)	教育講演
	座長 齋藤 信也（岡山大学）
	演者 宮崎 貴久子（京都大学）
14:20-15:00 (40)	会長講演
	演者 齋藤 信也（岡山大学）
15:00-15:45 (45)	一般演題
	座長 齋藤 信也（岡山大学）
15:45-17:00 (75)	シンポジウム
	座長 下妻 晃二郎（立命館大学）
	齋藤 信也（岡山大学）
	演者 平 成人（岡山大学病院）
	能登 真一（新潟医療福祉大学）
17:00-17:05 (5)	閉会挨拶

プログラム

教育講演 13:35-14:20

座長 齋藤 信也（岡山大学）

QOL 初学者に知っておいて欲しいこと

演者 宮崎 貴久子（京都大学）

会長講演 14:20-15:00

QOL に関わる倫理問題

演者 齋藤 信也（岡山大学）

一般演題 15:00-15:45

座長 齋藤 信也（岡山大学）

15:00 1) 短期通所リハビリ利用者におけるリハビリ計画書が長期的 QOL に与える
(P4) 影響

倉敷中央病院救急科 田村暢一郎

15:15 2) 悪性胸膜中皮腫術後患者の運動機能と健康効用値との関係
(P5)

兵庫医科大学大学院医学研究科 田中隆史 他

15:30 3) QOL 評価研究の実践を通して生じる課題：質的研究中間報告
(P6)

京都大学大学院医学研究科・健康情報学分野 宮崎貴久子 他

シンポジウム 15:45-17:00

QOL を測ることと価値づけることの間

座長 下妻 晃二郎（立命館大学） 齋藤 信也（岡山大学）

1. QOL を測ることの諸課題

平成人（岡山大学病院・乳腺/甲状腺外科）

2. QOL を価値付けることの諸課題

能登真一（新潟医療福祉大学・医療技術学部）

1) 短期通所リハビリ利用者におけるリハビリ計画書が長期的 QOL に与える影響

田村暢一郎

倉敷中央病院救急科

【目的】

日本は現在、超高齢化社会に突入しており、政府は地域包括ケアシステムを導入し、疾病発症後早期に在宅に移行することを目指している。患者は疾病により機能障害を有しつつ、リハビリテーションが必要な状況で在宅に移行する。この際、通院しリハビリを行う通所リハビリサービス（以下、通所リハ）を利用する。通所リハではまず利用者のニーズを把握し、生活背景、家族背景、介護度などが勘案されたリハビリ計画書が作成されるが、この作成にあたっては統一した生活評価プロトコルはなく、各スタッフの経験をもとに行われることが多い。この結果、視覚化される身体的機能障害にはフォーカスされやすい一方、視覚化されにくい精神的機能障害や、他者とのかわりでもっとも重要な社会役割にはフォーカスされていないことがある。本研究の目的は SF-36 の 8 つの下位尺度を用いて患者生活、嗜好を包括的に評価したリハビリ計画書の QOL スコアに対する影響を明らかにすることである。

【方法】

自宅で生活しており、通所リハを既に利用している 65 歳以上の利用者を対象とする。通所リハビリを提供しているスタッフを対象に研修会を行い、SF-36 の 8 つの下位尺度を用いて包括的に患者生活を評価、分析したリハビリ計画作成のトレーニングを行う。トレーニング後に対象となった利用者のリハビリ計画書を見直し、新たな計画書を作成する。患者背景として年齢、性別、疾患分類（脳血管疾患、運動、廃用症候群、心大血管、呼吸器、その他）、発症後月数、教育歴、収入、婚姻状況、居住状況、HADS スコアの情報を収集する。アウトカムは介入前、介入後 3 か月後、介入後 6 か月後の SF-36 スコアの推移とする。

【予想される結果】

発症後間もないケースは Physical summary score に関する下位尺度の改善を認めるが、発症後時間がたっているケースはあまり変化が見られない。Mental summary score や Physical function score に関する下位尺度の改善に関しては Physical とは違う傾向を示す可能性がある。

2) 悪性胸膜中皮腫術後患者の運動機能と健康効用値との関係

田中隆史¹⁾²⁾，森下慎一郎³⁾，橋本昌樹⁴⁾，中道徹⁴⁾，内山侑紀⁵⁾，
長谷川誠紀⁴⁾，道免和久⁶⁾

- 1) 兵庫医科大学大学院医学研究科 2) 兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部
3) 新潟医療福祉大学リハビリテーション学部 4) 兵庫医科大学呼吸器外科学
5) 兵庫医科大学リハビリテーション科 6) 兵庫医科大学リハビリテーション医学教室

【背景】悪性胸膜中皮腫(MPM)は、アスベスト暴露に関連する治療困難且つ稀な悪性腫瘍である。先行研究では肺癌患者の身体運動機能について、肺切除後の運動耐容能が著明に低下することが報告されている。また QOL について、患者報告によるアウトカム指標(PRO)の尺度である健康効用値は、近年さまざまながん患者に対する包括的な健康関連 QOL 評価に用いられている。しかしながら MPM 術後患者の身体機能と健康効用値の関係について、周術期および維持期について比較検討した報告はない。

【目的】MPM に対して胸膜切除／肺剥皮術(P/D)を施行した患者の周術期および維持期の健康効用値を評価し、運動機能との関係を検討すること。

【対象・方法】対象：兵庫医科大学病院で MPM に対して P/D を施行、周術期にリハビリ介入した患者 16 名（全例男性，62.1±9.0 歳）。方法は運動機能として握力，膝進展筋力，運動耐容能（6MD）を測定し，健康効用値は SF-6D を算出した。評価は術前後および手術 1 年後に実施した。統計学的分析は，各評価時の平均値比較は一元配置分散分析を用いて，健康効用値と運動機能の変化量の関係はピアソンの相関係数で分析した。

【結果】評価項目（術前→術後→1 年後）：SF-6D（0.59→0.50→0.59／術前→術後および術後→1 年後で $p<0.05$ ），握力（35.2→33.4→34.9kgf/n.s.），膝進展筋力（41.9→37.3→39.1kgf/n.s.），6MD（457.1→356.8→475.4m／術前→術後および術後→1 年後で $p<0.05$ ）。評価値の変化量の関係は，6MD と SF-6D（術前→1 年後）が関連していた（ $r = 0.531$ ， $p<0.05$ ）。

【結語】MPM に対する P/D 術後，健康効用値は低下するが手術 1 年後に改善した。また，健康効用値の改善は運動耐容能の変化に関係することが示唆された。

3) QOL 評価研究の実践を通して生じる課題：質的研究中間報告

宮崎 貴久子¹⁾，錦織 達人²⁾，田村 暢一郎³⁾，林田 りか⁴⁾，能登 真一⁵⁾，
齋藤 信也⁶⁾，下妻 晃二郎⁷⁾，鈴鴨 よしみ⁸⁾

- 1) 京都大学大学院医学研究科・健康情報学分野
- 2) 京都大学医学部附属病院医療安全管理・消化管外科) 3) 倉敷中央病院・救急科
- 4) 長崎県立大学シーボルト校・看護栄養学部看護学科
- 5) 新潟医療福祉大学医療技術学部・作業療法学科 6) 岡山大学大学院保健学研究科
- 7) 立命館大学生命科学部・生命医科学科
- 8) 東北大学大学院医学系研究科・肢体不自由学分野

【目的】 QOL 評価研究者の育成に資する方法論を検討するために、QOL 評価研究の実践を通して生じる課題を明らかにする。

【方法】 QOL 評価研究を実践している研究者を対象に、インタビューガイドに基づいた半構成的インタビューをした。参加者は QOL 評価研究の実践者で、文書による同意書を退出した者である。インタビュアーはインタビュー調査法について一定の知識を得た者である。インタビューは許可を得て録音し、その録音データから逐語記録を作成して分析データとした。分析方法は質的内容分析で NVivo10 を用いた。分析過程では複数人で検討することによって分析者の恣意性を排除している。東北大学の倫理審査 2016-858。

【結果】 インタビューには男性 19 人・女性 11 人の計 30 人の QOL/PRO 研究者の協力を得た。年代は 40 代 12 人・30 代 8 人・50 代 6 人ほか、職業は医師 11 人・看護師 7 人・理学療法士 5 人・歯科医師 3 人ほかであった。インタビュー平均時間は 53 分。分析では 25 のカテゴリーが抽出された。抄録作成時の中間報告ではあるが、おおかたではコアとなるカテゴリーが 2 つに分けられるだろう。まず「臨床研究の方法論」、「研究資金の確保」、「研究フィールドのセッティング」、「統計の知識」などのように、臨床研究全般的な課題が挙げられた。一方で「周囲の QOL 研究への理解がないこと」、「QOL 研究と臨床」、「e-PRO の活用」、「QOL 評価のリテラシー」「日本語版の翻訳表現」などのように QOL 評価研究特有の課題もあった。「指導・相談へのアクセス」や「勉強方法が確立していない」などに対しては、QOL 評価研究者育成を鑑みて、どのように支援できるのかを検討する必要があるだろう。

【中間報告としてのまとめ】 QOL 評価研究実施上の課題となるデータを収集して、内容分析によって 25 カテゴリーを同定した。今後、カテゴリーの関係性の比較検討と分類を進めて、本研究会ではどのような支援策ができるのかを検討する予定である。

(学振科研 15H04748、20H03905)

発行： 2020年12月19日（土）

QOL/PRO 研究会

事務局連絡メールアドレス qolpro@gmail.com

ホームページ http://qol_pro.umin.jp/